

地球環境に優しい組合活動

ACTIVE KUMIAI

協同組合国母工業団地工業会

協同組合国母工業団地工業会（中村篤人理事長）は、組合員にブドウの苗木を4月13日（水）に配布し「緑のカーテン」造りへの協力依頼をした。



ブドウの苗木のチェック

これは、甲府市地球温暖化対策地域協議会が、地球の環境に優しい活動として提案するブドウを使った「緑のカーテン」の造り方の「こつ」や「手入れ」の方法を確立し、県内の多くの事業所に広める足がかりとした活動に協力し、昨年組合事務局で事務所の南側の窓際に「スチューベン」という種類のブドウの苗木2本を試験的に植え「緑のカーテン」を育てた。「緑のカーテン」の効果は、日差しを遮るとともに、見た目にも事務所を涼しくし評判もよかったこともあり、組合では、冷房を控ええ節電に役立ち、また、二酸化炭素を減量し地球温暖化対策に役立つブドウによる「緑のカーテン」造りを組合事業の一環として実施したものである。

山梨環境カウンセラー協会によると、通常「緑のカーテン」は、ゴーヤーやヘチマ、アサガオなどの一年草が多いが、ブドウは葉が広がるまで2〜3年かかるが、植え替え等の手間もかからないで、確実に日差しを遮ってくれ効果は大きく、また、山梨のイメージにも合致しているためブドウの「緑のカーテン」を推進しているとのこと。



苗木の移植風景

当組合では、従来から深刻さを増す地域環境問題について、組合員企業が共通の認識に立ち、環境調和型の工業団地を目指す方針を確立し環境保全対策事業の一環として、廃棄物ゼロを目標に資源循環型社会を構築する構想であるゼロ・エミッシヨン事業も実施している。